

第19回 第1分科会会議録(概要)		場 所	新宿区役所第一分庁舎 7階 研修室
日 時	平成18年3月16日(木) 午後6時30分～午後8時30分	記録者	【学生補助員】 田多井さやか 古谷聡子
		責任者	区事務局(菊地、並木)
<p>会議出席者：22名 (学識委員：2名 区民委員：15名 区職員：5名)</p>			
<p>配布資料</p> <p>第19回次第</p> <p>第18回会議録</p> <p>基本構想を描く区民ワークショップ提案書(抜粋)・・・中野区</p> <p>みたか市民プラン21(抜粋)・・・三鷹市</p> <p>世話人会第1回会議まとめ</p> <p>「イギリスから学ぶホーム・ビジティングの挑戦」お知らせ</p> <p>第20回・第21回開催通知</p> <p>進行内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本日の進め方について 2. 世話人会からの報告 3. ビジョンの再確認 4. 中間発表会のレポートから不足している点の討議 5. その他(事務局) <p>会議内容</p> <p>【発言者】 : 区民委員、 : 学識委員、 : 区職員</p> <p>(板書)</p> <p><新宿区次世代育成支援計画での目標></p> <p>子どもの生きる力と豊かな心を育てます。</p> <p>きめこまやかなサービスですべての子育て家庭のサポートをします。</p> <p>子育てと仕事の両立がしやすい環境づくりを進めます。</p> <p>家庭・地域の子育て力・教育力をアップします。</p> <p>安心して子育てできる都市環境をつくります。</p> <p><中間発表会において第1分科会が追加すべきとした目標></p> <p>子ども自身も社会の一員として「参画」できるまちづくりをします。</p> <p>行政と市民(citizen)が共に成長していくしくみをつくります。</p> <p>未来の子どもたちに伝統と知恵と住みやすい環境を伝承していきます。</p> <p>誰もが愛着を持てる地域コミュニティの再生をします。</p>			

< 中間発表会レポートの章題 ~ >

親への支援
子育てを核とした地域再生
子育て・教育をめぐる環境
子どもの生きる力と豊かな心を育てる
社会を担える青少年の育成

< 最終提言に向けたテーマ>・・・本日の会議で決定

- ・親への支援
- ・子育てを核とした地域再生
- ・持続可能な社会に向けた子育て・教育
- ・より質の高い教育が平等に受けられる教育環境づくり
- ・青少年の自立と社会参画支援
- ・新宿区子どもの権利条例の策定を目指して

:(司会 リーダー)

それでは始めさせていただきます。

まず、本日の進め方です。3月10日に行われました世話人会に、私が出席しましたので、その報告をさせていただきます。次に、前回の宿題になりました最終提言に向けたビジョンの再確認をいたします。中間発表会で第1分科会が、新宿区次世代育成支援計画に追加すべきとした目標について討議を願いたいと思います。加えて、時間がありましたら、前回話題に挙がっておりました中間発表レポートからの欠落項目を整理して、最終提言に向けていきたいと思います。最終的には、6月25日に区長に提言書を提出できるように、ご協力願いたいと思います。それまで時間がないのですが、できるだけ討議したものを世話会の(仮称)起草調整部会に出したいと思います。

資料の確認をいたします。第18回会議録です。次に 基本構想を描く区民ワークショップ提案書(抜粋)・・・中野区、みたか市民プラン21(抜粋)・・・三鷹市、世話会第1回会議まとめ、第20回・第21回開催通知をご確認ください。

では、世話会の会議の報告からさせていただきます。3月10日に区役所で、第1回世話人会を開きました。基本的には、各分科会からの委員の顔見せと最終提言をまとめるための話をしました。出席者については、プリントの冒頭のところに書いてあるとおり各分科会の区民委員の代表者と学識委員で構成されております。話し合いの中で、6月25日に、ただ単に提言書を提出するだけで良いのかという意見もありました。区では会場は確保してあるそうなので、提出式のようなイベントを催すこととなります。

なお、イベントについては各分科会から3名程度の委員を出し合ってワーキンググループ(以下、WGと標記)をつくりますので、お手伝いをお願いしたいと思っています。

提言書については、各分科会ごとにまとめるのではなく、テーマ別にまとめることで、概ね意見が一致しました。配布したプリントの(3)に提言書のフォーマットが書いてあります。テーマについては、第1分科会で関係する項目はここで整理して、それを(仮称)起草調整部に提出したいと思います。その際にはフォーマットで示したように、将来のあるべき姿、現状と課題、今後の取組みの方向性を記載することになりました。また、提言書を作るにあたりまして、(仮称)起草調整部の構成委員(各分科会リーダーと学識委員)として、第1分科会では私と杉山委員が加わることになりました。(仮称)起草調整部は3月23日に開かれますので、そのときにもっと具体的な提言書作成の話が出てくると思います。以上簡単ですが、世話人会の報告でした。杉山委員、補足説明はありますか。

:(杉山)

第3分科会の学識委員の卯月委員が、「基本計画には大項目・中項目・小項目の整理があるので、これに従うのはどうでしょう。」と提案してくださいました。大項目というのが、第1分科会から第6分科会までの共通のざっくりしたいくつかの項目のこと。中項目は(仮称)起草調整部に提出することになった各分科会ごとにまとめる項目のことです。(仮称)起草調整部では、分科会ごとに出された中項目を整理して提言書を作ることを想定しています。というわけで、(仮称)起草調整部は編集の役割を持つことになります。皆さんの意見を提言書に吸い上げていく部会だというイメージを持ってもらえればと思います。

また、6月の提言式をどういう形のイベントにするかという企画や運営を仕切るWGについての話も出ました。世話会のメンバーが、提言書の起草と両方一緒に担当すると大変なので、提言書の編集委員とイベントを演出する委員は別にしたほうが良いのではないかと決まりました。このイベントのためのWGにもご協力いただければと思っています。

今日は前回までの議論を踏まえて、第1分科会としての最終提言のテーマを設定するという議論になります。以上です。

:(菊地)

最終提言のビジョンの検討の前に、事務局から説明があります。前回の会議で中野区と三鷹市において、どのように区民参画で基本構想・基本計画をつくったかを事務局から報告してほしいという要望がありました。どの程度の区民(市民)の意見が取り入れられたのか、また新宿区はどう評価しているのかという質問でした。私は、以前に両自治体に行き、担当者とお話をさせていただきましたが、新宿区としてどう評価しているのかというものはありませんので、個人的にどう感じたかで良ければ、お話できますと申しました。今日の配布資料に両自治体のワークショップがつくった提案書(抜粋)があります。全部のページをお配りできればいいのですが、かなり厚い冊子になっておりますので、「子育て」に該当する部分を抜粋して配布しています。三鷹市はインターネットで

も閲覧できます。

三鷹市は、かなり以前からコミュニティ関係のことに取り組んでいる地域です。基本計画が始まる10年位前から市民参画の仕掛けがなされていたようなところがあります。ですから、三鷹市は新宿区と比べて、少し地域性が違うのかなという感じを受けました。こちらは市民の会議体が補助金を受けて、自主的に運営してひとつひとつ自分たちで作っていました。

一方、中野区は地域性も含めて、新宿区に似ているという感じを受けました。初めの募集人数は100人のところ、157名の区民に参加いただいたということを知りました。実際には、4つの分科会に分かれて運営していました。

両方の自治体の提言書を見て感じた率直なところですが、三鷹市はすごくきれいな提言、中野区は時間がないところを初めての経験で取り組んだため、形式にばらつきは見られますが、区民の声がそのまま載っている、思いがそのまま入っていると感じました。三鷹市と中野区は、もともとのまちの歴史が違うということもありますので、二つを見比べるとずいぶん異なった印象を受けると思います。三鷹市のように補助金を受けて会議体が運営をする方式は、いきなりだと難しいこと、新宿区としても初めての取り組みなので、行政側も勉強させていただきたいということで、区民と一緒に運営していく方法を探らせていただきました。具体的な内容の話ができると良いのですが、今日はあまり時間もないということでしたので、後で資料を見ていただいて、個別に質問をしていただければと思います。

:(司会 リーダー)

今日は初めに申しましたとおり、第1分科会の最終提言に向けた目標の設定について検討したいと思います。新宿区次世代育成支援計画では、すでに5つの目標が設定されていますが、第1分科会ではそれに4つプラスして中間発表会で提案をしました。前回の会議では、この目標についてまだ改善点や不備があるというご指摘がありましたので、もう一度検討したいと思います。提言書のテーマのことも頭に置きながら目標設定について何かご意見はございますか。

:

この分科会の掲げる大テーマでもある教育について抜けている感じがします。皆さんはこの問題について、どの程度取り組む気持ちがあるのでしょうか。

:(杉山)

前回、教育について扱うWGをつくるという結論になりましたが、それでは足りないのでしょうか。教育を検討することは、前回で確認しています。

:

では、追加の目標に「より質の高い教育が平等に受けられる学校づくり」を入れてください。

:(司会 リーダー)

目標がある程度決まりましたら、テーマの欠落部分の話し合いもしていきたいと思っております。第1分科会は、最初、6つのグループに分かれており、その後3つに編成し直しました。特に、子育てのための環境グループと地域の中での子育てグループは、他のグループに吸収されてしまう形になりましたが、その際に落ちてしまった項目があれば意見ををお願いします。

:

中間発表会での追加目標にある「未来の子どもたちに伝統と知恵と住みやすい環境を伝承していきます。」に含まれているのですが、もう少し「持続可能」というニュアンスを出したいのですが。

:(司会 リーダー)

目標は今の形のまま提出というわけではありませんし、目標だけが提案書に載るわけではありませんので、盛り込む内容に加えられると思います。

:

大きな枠組みとして「社会ビジョン」のことを盛り込む必要があると思います。それから、教育・子育ての未来社会ビジョンを入れないと、達成目標だけになってしまう気がします。何のためにこれをするのかということを考えないといけないと思います。

:(司会 リーダー)

そうですね。細かいことは今申し上げた、テーマを検討するときに盛り込んでいってもらえたらと思います。

地域の中での子育てグループに入られていた委員で、意見はありますか。

:

グループで話し合ったことは具体的な取り組みだったので、目標に反映されていないと思います。

:(司会 リーダー)

目標という形なので、グループで話し合った方向性が反映されていれば良いと思います。

:

目標はこの形で良いので、具体的な施策を盛り込む段階で、私たちの話し合った内容を反映させれば良いと思います。目標の中には、結局どれも絡んでいることですから。

:

これは、あくまで子育てに限った目標だと思います。これに含まれない、貧困・人権・平和・福祉・引きこもり・ジェンダー・多文化共生などの問題がありますが、それには触れないのかということになってしまうので、「持続可能」な社会を目指すためにもこの目標の上に大項目を置かないと議論が小さくなってしまわないでしょうか。逆に大項目を置いておけば、具体的な問題にも広範囲で対応できると思います。

:(杉山)

前回の会議で、第1分科会の目指す先が不明確になってしまっていたので、方向性の確認のためにもう一度考えてきてくださいという宿題を出しました。今の意見は、(仮称)起草調整部会の委員全体として受け止めておかねばならないことと思いましたが、今の意見は、次の段階のテーマ設定の際にお話いただいたほうが良いと思います。今は目標のレベルで加えるものがあるのかないのかを確認して、次の作業へ移ると考えてください。

:

今私たちがすべきことは、ジェンダーなどを目標に取り入れるということではなくて、その視点を忘れないで討論していくということではないでしょうか。

:(司会:リーダー)

そのような視点を無視して問題は語れないということでしょうね。提言全体の形としては、はじめに前書きと最後にまとめがつく形の編集になると思いますので、そこに今の意見のような考え方も盛り込まれると思います。

:

各グループで話し合ったことをいちいち目標に盛り込むと非常に多くなってしまおうと思うので、もっと大きなビジョンでくくっておけば、今まで議論した項目が抜けないと思います。

:(汐見)

先日の世話人会の話し合いによって、各分科会でフォーマットにしたがってテーマを考えて提出してくださいということになりました。ですから、テーマをそれぞれ考えなければいけません。この分科会は「子育て・教育・青少年」を所管していますが、それは大き過ぎるので、具体的に新宿区の基本計画で解決していかなければならないテーマ・課題は、どんなものがあるのかということをもまずはっきりさせて、それについてこういうフォーマットでまとめましょうと決まったのです。そうしますと、新宿区次世代育成支援計画の5つのテーマが、そのまま最終提言のテーマになるのかということをお先ず、チェックしなければいけないわけです。それから、中間発表会において付け加えられたテーマが同じようなレベルで、テーマになるのかどうかということもチェックが必要です。

先ほど学校教育が盛り込まれていないのではないかといいましたが、私が見るところ、相当混乱していると思います。まず、次世代育成支援計画の「子どもの生きる力と豊かな心を育てます。」は最終提言のテーマにならないと思います。抽象的・一般的過ぎて、新宿区のテーマということではありません。ですから、このために何をするかと言えば、全部の取り組みが入ってきます。個別のテーマにはなりません。「きめこまやかなサービスですべての子育て家庭のサポートをします。」は子育て支援です。「子育てと仕事の両立がしやすい環境づくりを進めます。」は子育てと仕事の両立支援です。

「家庭・地域の子育て力・教育力をアップします。」は家庭の教育力のアップ、地域の教育力のアップです。「安心して子育てできる都市環境をつくります。」は安心安全の

街づくりです。からは、それぞれ具体的な案が書き込めます。つまり、テーマになるということです。

しかし、中間発表会で追加した項目はそれぞれカテゴリーが違って来るわけです。「子ども自身も社会の一員として「参画」できるまちづくりをします。」は子どもの参画を進めます、という意味になります。次世代育成支援計画のテーマの中になくテーマのひとつに「子育て支援」があります。子どもの参画は、子育て支援のカテゴリーの中に入ってくるものです。では子ども自身の成長をサポートする子育てと同じオーダーを持つものは何かと考えて、子育てに対応するものとして置いたらバランスが良いのではありませんか。ですから、現状のままではオーダーが違う気がするのです。「行政と市民(citizen)が共に成長していくしくみをつくりまします。」は行政と市民のコラボレーションです。これは子育て支援とは直接関係ないのです。これは、子育てをしていくうちに新しい行政システムが必要になってくるということが分かってきたので設定した、別の領域のテーマです。だからこれは第1分科会のテーマには入らない。「未来の子どもたちに伝統と知恵と住みやすい環境を伝承していきます。」は地域の教育力のアップの中に入る、小目標に属するものです。「誰もが愛着を持てる地域コミュニティの再生をします。」はもっと高い位置の目標になってしまうので、子育てに直接関係ありません。本日の会議で提案されました「より質の高い教育が平等に受けられる学校をつくりまします。」は学校教育についてテーマを持ちましようという意味ですから、ここに入ってくると思います。

ですから最終提言のテーマとしては、、、、の5つしかありません。後の項目は他のテーマに組み込めてしまうのです。この目標で良いのかを早く決めないと議論が先に進みません。持続可能な社会をつくっていくというテーマは、たぶんさらに上のテーマになるのだと思います。先ほどの話にもあったように、キーワードはあちこちに散りばめていきたいし、それがどういう方向を向いているのかについても書きたいと思うのですが、第1分科会に託されている「子育て・教育・青少年」の分野で、新宿区はどのような問題を持っているのか、それを解決するためにはどのようなプランがあるのか、そのテーマがいくつあるのかについて、早く決めることだと思います。

このフォーマットは、どのレベルで書くことに決まりましたか。

:(菊地)

世話人会では、中項目のレベルで書くという結論でした。

:

大・中・小のどれに入るのかがまだ整理できないのですが、新宿区独自の子どもの権利条例のようなものをテーマに定めてもらえれば、テーマから除かれた項目を網羅できると思います。子どもの立場を私たち大人がきちんと認めるという基準に帰れば、いろいろな枝葉の項目が考えられますので、提案したいと思います。

:(汐見)

それは、「子どもを社会が大事にするような機運をつくります。」という目標の中に、子どもの権利を新宿区独自の条例で定めていこうということになるのか、「新宿区版の子どもの権利条例をつくります。」と直接挙げるのかのどちらかです。どちらにしても、今の意見は新しい提案ですので、目標に追加してください。

:

確かに目標 があまりにも大きすぎるテーマであることは感じていました。ですから、これをもう少し分解するとか、別個にいくつかの目標を立てないといけないと思います。というのは、私たちは子どもの参画については、自分たちが提案したように考えていましたが、実際は目標 の項目に書いてありました。書いてはあるが、おそらく取り組み方に問題があって、そのアプローチの仕方を補うところを私たちが、しっかり現場の目で見て、考えていかなければならないのだと思います。

:(汐見)

新宿区次世代育成支援計画では、若者に対するサポートというものが特に提案されていません。これを解決しなければ、ニートやフリーターの問題は無くならないのです。この問題こそを、国に任せるだけでなく、自治体に取り上げてほしいと思います。例えば、子どもの支援だけではなく、若者の自立支援というトピックをひとつ出したほうが良いのではないのでしょうか。今まで、議論には出てこなかったけれども、多文化共生の問題も、多国籍の子育ての支援という形でテーマとして出したほうが良いのではないかと思います。そういうことを今まで議論してきたものをうまく使ってテーマに出していったほうが良いと思うのです。

:(杉山)

汐見委員から現状の 5 つの中項目を増やしていこうという提案ができました。事務局に確認なのですが、テーマの適当な数についてお伺いしたいのですが。

:(菊地)

区として、いくつかのテーマでないといけない、というものはありません。各分科会によって扱っているテーマの大きさも違うことから決めていません。

テーマのレベルは、区としては第1分科会には「子育て・教育・青少年」で大きく分けて分野として検討をお願いしました。しかし、世話人会では、もう少し中項目程度に落として、テーマを読んでどういうものを目指しているのか分かるようなレベルで見せていくほうが良いという意見がありまして、中項目レベルでの設定にしましょうということになりました。私のイメージでは、第1分科会は中間発表会のレポートにある項目が整理されていて、テーマになると個人的には思っていました。あくまでもレポートの「はじめに」にある「次世代育成支援計画を見たときに、そこで挙げている目標では第1分科会で議論したことに比べて足りないから、もう少しこういったビジョンを増やしましょう。」ということいくつか追加のテーマが出てきたという認識でした。皆さんが今

まで議論してきた内容が、そのままの形で載ってくるのはこの5つのテーマなのかと考えていました。世話人会で中項目でテーマを設定することになって、もう少しレベルを上げないといけないかと考えています。

また、中野区の提言書は年齢別で区切っています。三鷹市の提言書は行政のくくりで割と似ています。テーマの設定や個数については、分科会の考え方で結構です。

:

次世代育成支援計画の目標と第1分科会で議論している目標との関係がおかしいと思います。それから、目標に親の支援について何も無いのは問題だと思います。子育てにとって、親への支援こそ中心だと思います。一度、原点に立ち返って目標を見直さないと、議論がどんどん偏ってしまう気がします。また、大きなテーマとありますが、大きなテーマはここで決めるのでしょうか。どこから持ってくるのでしょうか。大きなテーマがはっきりしないのにその下の議論をしても、当てはまらなくなってしまうと思います。最後にもうひとつ、韓国の方の多く住んでいる地域をどうするのかについてです。もう私たちの議論のレベルではなく、行政が手をうってくれないとどうにもならないような気がします。

:(司会:リーダー)

ありがとうございました。私の認識では、新宿区は初めての取り組みですし、学識委員の意見を聞きながら、私たちのつくってきた目標で良いのではないかと考えています。ですから、中間発表会のレポートに書いたことが全てではございません。削るものは削る、入れたいものは入れるということで、ある程度目標を決めたうえで欠落部分の補完をして、小項目のテーマで今までの議論を反映させていけばいいかと思います。

:

私は在住外国人の支援について考えたく、この区民会議に参加しています。外国籍親子の課題については、多文化共生というテーマとして議論するのか、または学校システムの問題、子育て支援、仕事と家庭の両立というような議論の中に多文化共生というテーマを組み込んでいくのか、どのようになるのでしょうか。

:(汐見)

今日の議論の中心はテーマを決めることです。しかし、ホワイトボードに書いてあること(板書:<次世代育成支援計画での目標>と<第1分科会での追加目標>を参照のこと)から議論が始まり、混乱しているのではないのでしょうか。中間発表会で議論してきたことをテーマに分けると5つの板書になります(板書:<中間発表会レポートの章題 ~ >を参照)。これは、この議論の場で行われてきたひとつの成果と考えます。また、ここで議論してきたことは、これらのテーマに当てはまります。ですから、これを出発点として、今後は、そこに抜けているテーマを足していく議論を進めることが生産的であると考えます。例えば、学校教育というのはあの5つの板書の中に入るのでしょうか。

:

実は「子どもの生きる力と豊かな心を育てる」というものが、もともとは教育の問題としてつくられたテーマでした。しかし、付け焼刃で入ったものなので、この部分は直さないといけないと思います。

:(汐見)

そうしましたら、そのような提案をしていくことが今日の議論なのです。

そして、多文化共生の問題ですが、これはすべての問題に入ってきます。よってテーマの中に個別に書き込んでいくしかありません。つまり、それぞれのテーマの中に小項目として入れていくということです。

:

ということは、子育て等も「子どもの生きる力と豊かな心を育てる」に入れてしまって良いということですか。

:(汐見)

そうです。

:

私はこの項目が私たちの議論の延長であるからじっくりいくのですが、それぞれのテーマの目標のレベルが違うので、それらを調整するために目標というものを使えばよいのではないのでしょうか。

:(汐見)

これらは中間発表会でテーマ分けしたもので、似かよっていると思います。

:

「親への支援」というのはもっと下のレベルではないのでしょうか。

:(汐見)

いえ、「親への支援」は大きなレベルです。といいますのは、親の中に誰が含まれているかということを考えると、子育てをきっかけに自分の家族を始めとして全て露呈されているからです。

:

「子育てを核とした地域再生」にも「親への支援」の考え方は必要だと思います。

:(汐見)

それらは書き方の問題になってくると思います。ただ、「子どもの生きる力と豊かな心を育てる」については、これは「教育の問題なのだ」ということがわかるように書き換えなれないといけません。とすると、先ほどありました、「質の高い教育が平等に受けられる教育環境づくり」という言葉をひとつのテーマとすることが適切だと思います。

:

ただ、子どもに伝統文化を継承したり、アイデンティティを持たせて生きる力を育んだりというプログラムを立てた場合、それらは「質の高い教育が平等に受けられる学校づくり」というテーマに入れても良いのでしょうか。

:(汐見)

それらはすべてのテーマの中に散りばめてください。今日、議論しなければならないことは大きく分けるということですから、今日、この場では板書(板書:<中間発表会レポートの章題 ~ >を参照)のとおりに分けたほうが、すっきりするということです。

:

前回の会議録の27ページにあるように、WGが前回できました。それでは各WGが検討したことは、この5つの中に入れていくことで良いのでしょうか。また、WGの中で子どもの権利というグループができましたが、その活動報告は次回行っても良いのでしょうか。

:(司会 リーダー)

そうですね。WGで話し合われたことは、5つの中に組み入れていきます。また、報告についても次回、お願いします。

:

それぞれのテーマの中に、他のテーマにおいても共通の項目を入れて議論していくという形で良いと思いました。

:(司会 リーダー)

そうですね。そのように進めていきましょう。

いかがでしょうか。今日、大きなテーマが決まると先に進みやすくなるのですが。

:(汐見)

いずれにしても、この大きな5つのテーマの中に同じ小項目がここに入るというような作業をしていかないと、いままでの議論が活かされません。

:(司会 リーダー)

今日は次世代育成支援計画での目標と第1分科会での追加目標という視点から議論が始まったわけですが、中間発表会レポートでの章立ての5つで、「子どもの生きる力と豊かな心を育てる」を書き換えるという提案がありました。それでは、表現の仕方では何か提案がありましたらお願いします。

:

先ほどありました「子どもの権利条例を策定します」というのは新たな1項目にはならないでしょうか。

また、本来区民会議とは誰もが参加しやすいものであるはずですが、しかし、今の区民会議というのは議論も難しくなり、参加しにくいものになっていると感じます。私たちはこの会議の場で、ひとりの母親が望むことを真摯に受けとめ、議論していくことが重要なのではないのでしょうか。そして、その母親が望むことというのは、やはり経済的支援であるということをお話した方からうかがいました。

新宿区の子どもたちが、他の地域の子どもたちと格差があってははいけません。現状として、金銭的に余裕があればもちろん私学に行けます。しかし、余裕のない家庭においては公立へ行くこととなりますが、学区域が自由になり、近くの公立学校ですら定員超過のた

め、はじかれることもあるそうです。そうすると、自宅から離れた学校へ通学することになり、交通費がかかってしまうことになります。

区民会議からの提言というのは、現場の母親たちの願いが分かりやすく表現できることが大切なのではないでしょうか。今の会議においては、表題と中身がどうしても遠くなっている気がします。

:(汐見)

経済的支援の問題については「質の高い教育が平等に受けられる教育環境づくり」に入れていかなければなりません。

また、新宿版子どもの権利条例を本気になってつくるかということについては、今まで十分な議論がされていないので、慎重にならなければなりません。同じような問題で、豊島区が政治的問題で、すったもんだしたということもありました。つまり、そこには政治的問題が絡んでくる可能性が大いにあり、かえって論点がずれてくるということもあろうのです。もし、これを最終的に提言として出すとしたら心を引き締めて、もう一步、前面に出なければいけません。ですから、どこかのテーマに入れ込むというよりは、ひとつのテーマとして立てても良いような大きな問題と感じました。

:

議題とずれますが、会議の出席者が少ないというのは日程に問題があるのではないのでしょうか。日程をもう少し考えてもらえないのですか。やはり、今日のように18時半からの会議というのは主婦の方々は出席できない時間帯であり、もっと参加者の立場に立った日程を決めるべきだと思います。もし、この状態が続くとなると役員だけの意見で、全てが決定されてしまいます。

また、まとめの方法ですが、これまでの議論を聞いていると、話し合ってきたことは、前にも発表しました「親への支援」のホップ・ステップ・ジャンプに全て入ってきています。だったら、項目をそこにすべて入れてしまったほうが分かりやすいと思います。それから、先日の中間発表会のように分厚い資料を配られても読みません。もっとパッと見て分かるような資料を作成したほうが良いと思います。

:(司会 リーダー)

参加者が少ないことは、私も非常に残念に思います。

また、意見のまとめ方については、世話人会において決定したフォーマットがあり、それとの兼ね合いもありますので、ご了承いただければと思います。

それでは中間発表会レポートの章立てにありました5つのテーマに、先ほどの提案にあった「新宿区子どもの権利条例の策定を目指して」を付け足した6つのテーマで、議論を進めていくということで、これらのテーマの表現方法について議論したいと思います。

:

「新宿区子どもの権利条例の策定を目指して」や「子どもの参画」というのは、テーマの中でも背骨のようなものであり、もし最終提言の中に前文があるのでしたらそこに入れ

込んではどうでしょうか。

:(杉山)

最終提言に前文というのはありません。また子どもの権利や参画と子どもの権利条例をつくるというアクションは異なっているため、やはり新たなテーマとしてひとつ作成しなければなりません。ただし、書き方として、例えば10年後には実現していますという書き方にするか、謳うだけかということがあります。

:

もし、子どもの権利条例を策定するのであれば、区民を巻き込む覚悟がなければならぬと思います。

:(汐見)

実際はそうなのですが、ここは基本計画に盛り込むかどうかということですから、そういうものがあつたほうが良いと強く打ち出すか、謳うだけかにするかということです。また、実際に策定するとなると、様々なことをしていかないと区民に浸透していきません。

ただし、ここで提案しても基本構想・基本計画策定の段階で削られる可能性はあります。

:(杉山)

皆さんが戦うのでしたら、私も戦いますよ。

:

新宿区では様々な宣言をしていると思いますが、今、ここでこういうものが必要だという提案が出ることは大切だと思います。

:(司会 リーダー)

それでは、中間発表会にありました5つの章立てに、子どもの権利条例の策定のテーマを付け足した6つのテーマにして、提言に向けて整理していきたいと思います。

表現については上から2つの「親への支援」、「子育てを核とした地域再生」については問題ないですね。「子育て・教育をめぐる環境」ということで、先ほど意見がありましたがいかがでしょうか。

:

中項目(=6つのテーマのこと)の下の小項目を検討しだすと、おそらくまた表現も変わってくると思います。ですから、まずはこれをこのままにしておいて、小項目を話し合ってから考えたほうが良いと思います。

:

それに関連してですが、最終提言のフォーマットにテーマを書くところがあります。これにこの6つのテーマを書いて、その後に小項目をまとめるのですか。

:(菊地)

テーマについては6つのテーマを書いて、取り組みについては、皆さんが話し合われた具体策について書くというようなイメージです。

:(汐見)

「子育て・教育をめぐる環境」というのはあまりにも抽象的なので、例えば「持続可能な社会に向けた子育て環境づくり」というように、はっきり出したらどうでしょうか。持続可能とすることによって自然環境の保全や歴史の継承等の意味合いも含まれます。また、「持続可能」は今後、間違いなくキーワードになってきます。

:(司会 リーダー)

では、このような形でいきたいと思います。もちろん、最終的に調整はしますので、何か議論がありましたら、その時にお願いします。

次のテーマですが、「より質の高い教育が平等に受けられる教育環境づくり」についてです。先ほど「高い教育が平等に受けられる学校」ということでしたが、汐見委員から「高い教育が受けられるのは学校だけではない」という意見がありましたので、「教育環境」にしました。

:

「環境」というと、意味が広すぎてしまうので「学びの場」とするのはどうでしょうか。

:

経済的な支援も含めていくのならば、「環境」としないと含められないのではないのでしょうか。

:(汐見)

先ほど言いましたのは平等にということ、例を挙げますとフランスがあります。フランスは植民地の問題で住み分けがされていて、自由に移民できる人とそうでない人が存在します。それによって、どうしても教育に格差が生まれてしまう。したがって、教育を平等にするために3歳頃の幼児教育を充実させる等の支援を行っています。そうすると、学校よりも幼稚園の教育が重視され、カリキュラムも言語教育重視に変化しました。

そうしたことを考えると、学校環境だけではなく教育環境をどう整理していくかということ併せて行わないと、「教育を平等にする」という問題は少し難しいと思います。そのような意味から「教育環境づくり」というような表現にしたのです。

:(司会 リーダー)

「教育環境」ということで、皆さんよろしいでしょうか。

では、次の「社会を担える青少年の育成」についてはいかがでしょうか。

:

「社会を担える青少年の育成」では、「より質の高い教育が平等に受けられる教育環境づくり」と重なる部分が多くあります。この章は義務教育以降の子どもの自立に特化されているので、「社会を担える青少年の育成」では少し違うような気がします。

:

「育成」というより「社会参画」なのではないでしょうか。「育成」と言うと、受身のよう聞こえます。「育成と参画」ということでしょうか。高校生にもなって、育成されている場合でもないですし。

:(杉山)

「青少年の自立と社会参画」ということで、良いのではないのでしょうか。

:

大学生の就職活動において、就職先がないという現状があります。そういう「うめき」が伝わらないと、「育成」というだけでは冷たい気がしました。私はもっと社会のしくみづくりから考えないといけないのではないかと考えます。

:

「社会を担える青少年の育成」ではなく「青少年の自立と社会参画支援」というのはどうでしょうか。

:

障がい者・障がい児への支援は、どこに入るのでしょうか。

:

それは先ほどの多文化共生、在住外国人の問題と同様で、どこにでも入ってきます。

:(司会 リーダー)

「社会を担える青少年の育成」は、「青少年の自立と社会参画支援」ということでよろしいのでしょうか。

それでは最後の「新宿区子どもの権利条例の制定を目指して」はいかがでしょう。

:

権利条例について、子どもたちは現在の状況では守られていないので、もっと親が支援すべきだと思いますから、きちんと条例化してあげたほうが良いと思います。

:

いろいろなことをやりだすと原点をどうしても忘れてしまいます。ですから、子どもたちの育成のために、私たちに何ができるかという原点を忘れずにしないといけないと思います。子どもの権利条例を表に出して行くことは非常に良いと思いました。

:(司会 リーダー)

ありがとうございました。それでは今日はこの6つのテーマで決定ということになりました。

:

「持続可能な社会に向けた子育て・教育」というテーマがまだぼやけていて、その確認なのですが、このテーマが網羅するところは何なのかもう一度教えてください。

:(汐見)

中間発表会の資料をベースに、子どもの参画問題を始めとした諸問題が入ってきます。

:(杉山)

仕組みについては是非、議論していただきたいと思っています。それによって、出たものは、第6分科会への提案になると思います。

:

「教育」というのは教える人がいて、教えてもらう人がいることだと思います。「教育」という言葉が多く入ると、上から押し付けられる感じがします。これはひとつとして、区民に自立してやっていただきたい、協働していただきたいという主旨があります。あまり「教育」という言葉を多用し過ぎると、誰かがやってくれるからという雰囲気になってしまうので、できるだけ少なくしたほうが良いと思います。

:

結論として、これら6つのテーマを提言として考え、今後議論していきたいと思います。

今後の進め方ですが、中間発表会でのレポートを基本にして、そこに入っていなかった項目について組み込んでいく。また前回いくつかのWGが立ち上がりましたので、それらの活動をまとめて取り込んでいきます。

次回は起草委員の選出をしていただきたいと思います。せっかく、このような場に皆さんが参加していますので、前回の中間発表会で起草委員をされた方ではない方をお願いしたいと考えています。

それでは杉山委員から連絡事項があります。その後、事務局からの連絡になります。

:(杉山)

以前、区民会議においてイギリスのホームスタートの事例を紹介させていただきました。この度、日本で初めて、ホームスタートを新宿区で始めることになりました。そのシンポジウムがありますので、皆さん、是非参加してください。

:

分科会の日程についてですが、毎月2回の両方とも平日に行われています。月に1回でも良いので、土・日曜日に開催していただくとありがたいと思います。

:(菊地)

区民会議の土・日曜日の開催について、実は区民会議がスタートした際に、皆さんに開催の希望曜日をうかがいました。その際、土・日曜日が良いという委員もいらっしゃれば、そうでない方もいらっしゃいました。当時の提案として、今の形のような平日の昼と夜の開催といたしました。しかし、もちろん土・日曜日の開催を希望という意見が多いのでしたら開催も可能です。

:

来られない人にもフォローアップをしてください。

:(杉山)

アンケートではなく意見をもらったほうが建設的なのではないでしょうか。

:(菊地)

実は現状として、第1分科会に登録している委員は51人いらっしゃるのですが、その半分の委員は連絡がない状況です。ですから、その委員の方達から意見をいただこうとしても、反応が無いのではないかと思います。

:(並木)

今日の区民委員の参加者は15人ですが、開催時間前の時点で10人の委員から欠席連絡がありましたので、実質25人前後で第1分科会は活動しています。欠席の連絡をしていただいた委員には、毎回、配布資料とその日の簡単な内容を記載したものを送付しています。

:(菊地)

土・日曜日の開催につきましては、4月の開催日はすでに決定していますので、5月の開催について検討したいと思います。

:

全員が参加することが一番理想ですが、出席率60パーセントを理想として開催するということが良いのではないのでしょうか。

:(菊地)

今日いらっしゃっていない委員にも連絡してみます。

それから、次回の日程についてです。(下記、参照)

また、次回については世話人会において、最終提言の構成等が示されると思いますので、作業に入れると思います。

:(司会 リーダー)

それでは、長時間、今日はありがとうございました。

第20回

日時：平成18年4月6日(木)

午後6時30分から午後8時30分 予定 (夜間)

場所：区役所第1分庁舎 7階 研修室

第21回

日時：平成18年4月21日(金)

午後1時30分から午後3時30分 予定 (昼間)

場所：戸塚特別出張所 地下1階 集会室